

鳳来寺山のコハズク

仏法僧の鳴き声実況放送成功

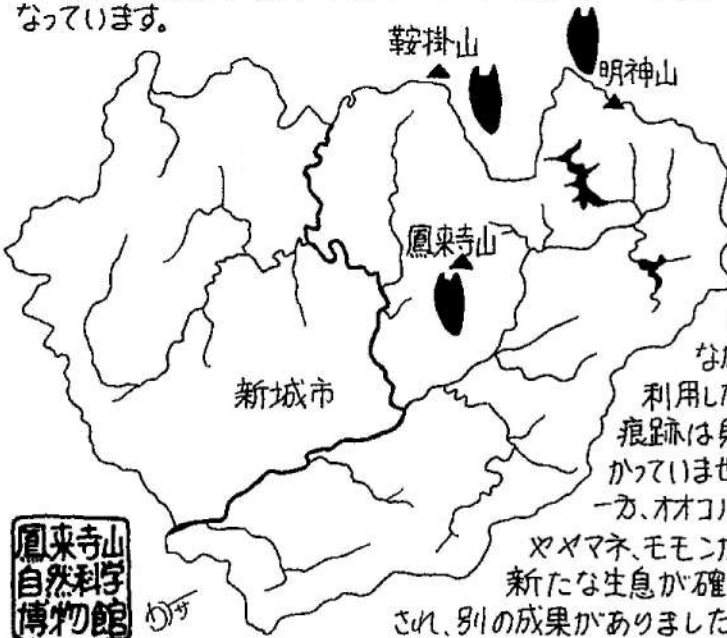
博物館ザッ記 No. 20
2021. III



愛知県の鳥・新城市の鳥

昭和40(1965)年5月、コハズクは愛知県の鳥に指定されました。前年、県を代表する鳥を県民に公募した結果、1位がコハズク、2位はヒバリでした。

平成22(2010)年には、新城市合併5周年を記念し、市の鳥になりました。愛知県内の主な生息地は、鳳来寺山以北の奥三河地方です。新城市内では、鞍掛山系、明神山系が主な生息地です。生息地、生息数が減少していることから、愛知県では絶滅危惧種になっています。



鳳来寺山
自然科学
博物館

残念ながら利用した痕跡は見つかっていません。一か、オオコハズクやヤママネ、モモンカなど新たな生息が確認され、別の成果がありました。

昭和10(1935)年6月7・8日、鳳来寺山で仏法僧の鳴き声のラジオによる実況放送がおこなわれました。2日とも仏法僧のすばらしい鳴き声が全国に響き、大成功しました。

この放送がきっかけとなって仏法僧の正体がフッポウソウではなく、コハズクであることが判明しました。

前年の昭和9年にNHK前橋放送局が、群馬県の迦葉山で仏法僧の実況放送をおこないましたが、鳴き声は聞かれず、やむなく八木節が流されて、失敗におわりました。

翌10年、NHK名古屋放送局が鳳来寺山で挑戦することになりました。鳴き声放送の反響は大きく、全国に感動が広がりました。その中で、東京浅草で飼われていたコハズクが、ラジオから流れる「フッポウソウ、フッポウソウ」と同じ鳴き方をし、仏法僧の正体判明の決定打となりました。



パラボナ型集音機

フッポウソウ
フッポウソウ
フッポウソウ

NHK名古屋放送局は、昭和10年5月20日に調査隊を派遣し鳴き声を確認。6月4日に放送機材を搬入しました。山中へは村人も協力して運びあげました。放送成功で威力を発揮したのが集音機で、500m先の声も集める能力がありました。

仏法僧がどこで鳴いてもいいように鳳来寺山の馬の背岩、本堂、行者越から地獄谷に至る岩場に設置し、万全の準備でのぞみました。

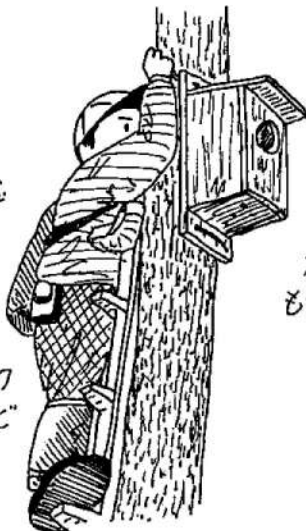


仮本堂の実況、座談状況

鳳来寺山のコハズク初鳴記録

博物館では、鳳来寺のコハズクの初鳴日の記録を昭和50(1975)年からおこなっています。昭和60年から15年間途絶え、平成11年に再び確認できました。その後とも確認できない年があります。	(2000) 平成12年 5月22日
	13年 5月6日
	14年 5月13日
	15年 5月3日
	16年 - -
	17年 - -
	18年 - -
	19年 5月22日
	20年 - -
	21年 6月6日
	22年 5月29日
	23年 - -
	24年 - -
	25年 - -
	26年 - -
	27年 - -
	28年 - -
	29年 5月13日
	30年 - -
	令和元年 5月4日
	2年 - -

巣箱の設置と追跡調査



平成8(1996)年から鳳来寺山を中心にコハズクの利用を願って巣箱の設置を始めました。翌年からは、巣箱の利用状況の追跡調査も始めました。



生息調査と保護飼養

コハズクの繁殖期にあわせて、鳴き声による生息調査を、奥三河を中心に実施しています。

また、傷病のコハズクの受け入れもしています。これまでに10件以上の傷病コハズクを保護してきました。無事放鳥できたものといれば死亡してしまった例もあります。自然復帰はむずかしいです。

